

# 平成29年度 文書館評価

## 評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用, 活用を図ります。

| 測定項目            | 過年度実績  |         |        | 目標値A | 実績値B     | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析  | 29年度の取組  | 次年度以降に向けた改善点  |
|-----------------|--------|---------|--------|------|----------|------------|---|--|---|
|                 | 26年度   | 27年度    | 28年度   | 29年度 |          |            |   |  |   |
| 1 登録者数          | 1,931  | 2,061   | 2,223  | —    | (745)    | —          | <p>◇29年度は大規模改修工事による仮事務所への移転のため、通常開館は4～5月の2か月にとどまり、6～10月は資料搬出等のための臨時休館となります。11月以降も仮事務所における閲覧資料の範囲や点数などに制限のある閲覧体制とならざるをえません。</p> <p>◇このため、評価項目1については目標値の設定は行いません。保存の観点からも資料に負担をかける閲覧体制とならざるを得ないため、閲覧者数や利用点数が多いことが単純に良い評価とはならないからです。数値目標を設けるのではなく、ひとつひとつの閲覧希望に対して安全・確実に応えていくことが目標となります。また、利用点数とレファレンス件数が減少していることから、文書館の存在や利用方法、収蔵資料への関心を高める努力を続けていく必要があります。</p> <p>◆29年度は、各項目についての目標値の設定は行いませんでしたが、実績値を参考としてカッコ書きで掲載します。</p> <p>◆大規模改修中の制限された運営体制であったため、どの項目も前年度比で減少しましたが、ひとつひとつの閲覧希望等に対して安全・確実に応えていくことができました。</p> <p>◆文書館の利用方法の周知や収蔵資料への関心を高めるための取組としてホームページを活用しましたが、アクセス数が前年度より1万件ほど増加していることから、一定の成果があったものと考えられます。</p> | <p>○大規模改修中であっても、文書館資料の魅力を広くアピールし、リニューアル・オープン後の利用につなげていけるよう、展示や講座・講習会などの普及事業は、他の博物館や図書館等と連携して、アウトリーチ手法により積極的に展開しました。</p> <p>○移転の準備や大規模改修工事の状況、その間の文書館の活動業務などをホームページで積極的に発信しました。</p> <p>○臨時休館や仮事務所での利用方法などを広報誌やホームページ等により周知するとともに、照会や利用希望に対しては丁寧に対応しました。</p> <p>○リニューアル・オープン後の利用拡大につながるよう、収蔵資料の整理を行いました。</p> | <p>○30年度は、前年度から実施している大規模改修工事のため、4月から10月は仮事務所での暫定開館、11月から3月は31年度当初のリニューアル・オープンに向けた収蔵資料の再配架などの準備のため、臨時休館となります。このため、29年度と同様、利用者の方々に混乱のないよう周知に努めるとともに、円滑な利用サービスに取り組む必要があります。</p> <p>○また、31年度当初のリニューアル・オープン時の利用水準が大規模改修工事前の水準を下回ることなく、さらに上回ることができるようにするための活動が必要となります。具体的には、アウトリーチ手法による普及事業、ホームページをはじめとした様々な手法を活用した魅力発信、リニューアル・オープン後の収蔵資料の公開・活用の拡大を図るための整理・再配架等に努める必要があります。</p> |
| 2 閲覧者数          | 4,190  | 4,629   | 4,532  | —    | (1,820)  | —          |   |  |   |
| 3 利用点数          | 34,086 | 35,587  | 42,263 | —    | (23,662) | —          |   |  |   |
| 4 レファレンス件数      | 1,056  | 670     | 223    | —    | (205)    | —          |   |  |   |
| 5 検索システムアクセス件数  | 77,750 | 100,912 | 95,419 | —    | (77,030) | —          |   |  |   |
| 参考) 利用者数        | 17,929 | 20,169  | 16,936 | —    | (8,960)  | —          |   |  |   |
| 参考) ホームページアクセス数 | 75,102 | 105,185 | 89,085 | —    | (99,206) | —          |   |  |   |

## 評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

| 測定項目                     | 過年度実績<br>(公開累積数で表示) |         |         | 目標値A    | 実績値B    | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析   | 29年度の取組   | 次年度以降に向けた改善点   |
|--------------------------|---------------------|---------|---------|---------|---------|------------|--|---|--|
|                          | 26年度                | 27年度    | 28年度    | 29年度    |         |            |  |   |  |
| 行政文書の公開(予定)点数<br>(整理済点数) | 160,985             | 170,186 | 177,940 | 180,000 | 185,514 | 103.1%     | <p>◇29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇例年に比べ収集点数が大幅に少なくなることが見込まれるため、昨年度の目標値の半減以下である約2,000点としました。</p> <p>◆行政文書の新規公開(予定)点数(整理済点数)は7,574点で、目標を上回る点数を整理することができました。</p> | <p>○引き続き、研修や庁内広報等により県職員の歴史的に重要な公文書に対する意識啓発を図りました。</p> <p>○東日本大震災などの歴史的資料については、資料を外部保管庫に預けるタイミングに間に合うように収集を行いました。</p> <p>○2年後のリニューアル・オープン後に、受け入れを取りやめていた管理委任文書をどのように受け入れていくか、関係課と協議を図りました。</p> | <p>○リニューアル・オープン後における、行政文書の円滑な受入体制を構築するための協議を関係各課と実施する必要があります。</p> <p>○臨時休館に伴う文書閲覧停止等について、適切に周知する必要があります。</p> <p>○県職員の歴史的に重要な公文書や文書管理制度における歴史公文書等に対する意識啓発を図ります。</p> |

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

| 測定項目                     | 過年度実績   |         |         | 目標値A    | 実績値B    | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析  | 29年度の取組   | 次年度以降に向けた改善点   |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|------------|---|---|--|
|                          | 26年度    | 27年度    | 28年度    | 29年度    |         |            |   |   |  |
| 古文書の公開(予定)点数<br>(整理済点数)  | 411,692 | 421,617 | 428,866 | 435,677 | 434,366 | 99.7%      | <p>◇29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇これまで未着手であった他機関所蔵の本県関係古文書写真版からの目録化作業を進めるため、これらも含めた整理点数を目標値としました。</p> <p>◆31年度のリニューアル・オープン後に公開するために整理を開始した文書については、仮事務所への移転の前後の期間に約3000点を整理しました。また、他機関所蔵の本県関係古文書写真版の目録化作業でも約3000点の公開準備を進め、目標値には若干届きませんでしたが、ほぼ予定どおり実施することができました。</p> | <p>○新たな県内古文書所在情報の収集に努めるとともに、県内市町村と連携をとりながら、所有者との確認・調査作業を実施して、開館後に収蔵できるよう取組みました。</p> <p>○県内外の史料保存機関に所在する県内関係古文書の調査と写真による収集を行いました。</p>  | <p>○30年度も、大規模改修工事の影響で整理作業が大きく制限されますが、収蔵資料を預託している外部保管庫からのデリバリーを利用し、計画的に整理作業を進めます。</p> <p>○29年度の実績をもとに、他機関所蔵の本県関係古文書写真版の目録化作業の計画を立て、整理作業を進めます。</p> |
| 報道写真の公開(予定)点数<br>(整理済点数) | 76,363  | 107,417 | 136,786 | 150,000 | 139,042 | 92.7%      | <p>◇29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇制約の多い中での整理作業となるため、目標点数は例年の50%程度に設定せざるを得ませんでした。</p> <p>◆29年度は、閲覧利用が多い紙焼版の報道写真15,144枚のデジタル化を優先して実施した結果、目標値には届きませんでしたが、暫定開館中の閲覧サービスの充実とリニューアル後の利便性向上を図ることができました。</p>  | <p>○報道写真の紙焼版をデジタル化し、暫定開館中でも閲覧を可能にすることにより利用者の要望に応え、さらにリニューアル・オープン後の利便性を高める取組みを行いました。</p> <p>○報道写真の検索システムについて、これまでの「撮影年月日」検索から、新聞の見出しも加えて登録することにより「キーワード」検索を可能にし、利便性を向上させました。</p> | <p>○30年度も、大規模改修工事の影響で整理作業が大きく制限されますが、収蔵資料を預託している外部保管庫からのデリバリーを利用し、計画的に整理作業を進めます。</p>   |

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

| 測定項目                     | 過年度実績<br>(公開累積数で表示) |        |        | 目標値A   | 実績値B   | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析  | 29年度の取組  | 次年度以降に向けた改善点   |
|--------------------------|---------------------|--------|--------|--------|--------|------------|---|--|--|
|                          | 26年度                | 27年度   | 28年度   | 29年度   |        |            |   |  |  |
| 地図資料の公開(予定)点数<br>(整理済点数) | 74,917              | 76,929 | 77,966 | 79,000 | 79,234 | 100.3%     | <p>◇29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇仮事務所においては県航空写真以外の地図は閲覧対象外となりますが、平成28年度と同様、約1,000点の収集地図の整理を行うことを目標値として設定しました。</p> <p>◆臨時休館期間中に積極的に整理を進め、目標値を若干上回る点数の公開準備を整えることができました。</p> | <p>○大規模改修工事実施にあたり、地図資料を外部保管庫に預けるタイミングに間に合うよう、例年より早い時期に県庁各課と市町村に対し、地図の収集を依頼しました。</p> <p>○平成31年4月のリニューアル・オープンを見据え、臨時休館直後から収蔵資料の整理に取り組みました。</p> | <p>○大規模改修工事終了後、外部保管庫からの資料搬入が始まる11月に間に合うよう、例年より早い時期に県庁各課と各市町村に対し、地図の収集を依頼します。</p> <p>○大規模改修工事のため、地図の整理期間が例年の半分の6か月間となってしまうので、集中的・効率的な整理に取り組みます。</p> |



評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

| 測定項目                                     | 過年度実績           |                 |                 | 目標値A            | 実績値B            | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析   | 29年度の取組   | 次年度以降に向けた改善点  |
|--|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|--|---|---|
|  | 26年度            | 27年度            | 28年度            | 29年度            |                 |            |  |   |   |
| 1 史料叢書の刊行                                | 第17巻<br>埼玉県布達集一 | 第18巻<br>埼玉県布達集二 | 第19巻<br>埼玉県布達集三 | 第20巻<br>埼玉県布達集四 | 第20巻<br>埼玉県布達集四 | 100%       | ◇第20巻の円滑な刊行を目標としました。<br>◆計画的に編集・校正作業を進めることにより、埼玉県史料叢書第20巻「埼玉県布達集四」を2月に刊行し、3月に配布することができました。   | ○第20巻の円滑な刊行を行うことができました。<br>○第21巻以降の刊行計画を具体化するとともに、30年度刊行予定の「小室家文書」の調査・編集作業を進めました。<br>○県史編さん資料の分類整理を休館中に進め、大規模改修工事の始まる10月までに外部保管庫等への移転を完了しました。 | ○大規模改修工事にもない編集作業が制約を受けませんが、刊行計画にもとづき第22巻「小室家文書」を編集・刊行するとともに、31年度以降刊行予定巻の編集を進めます。<br>○大規模改修工事により、県史編さん資料は外部保管庫等に預託してあるため、公開のための整理は休止せざるを得ません。そのため、次年度は年度後半に資料を事故なく再搬入し、整理・点検のうえ新たな配架を完了させることに重点的に取り組みます。 |
| 2 県史編さん資料(写真資料等)の公開(予定)点数(整理済点数)(累積数で表示) | 15,761          | 18,479          | 21,507          | 23,007          | 24,170          | 105.1%     | ◇29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。<br>◇大規模改修工事による制約条件があり、28年度の実績値は困難と考えられるものの同程度の目標値を目指して設定としました。<br>◆作業の効率化を図ることにより、目標値を1100点以上超える点数のデジタル化を達成することができました。 |   |   |

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

| 測定項目                        | 過年度実績                 |                       |                       | 目標値A        | 実績値B              | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析  | 29年度の取組  | 次年度以降に向けた改善点   |
|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-------------|-------------------|------------|---|--|--|
|                             | 26年度                  | 27年度                  | 28年度                  | 29年度        |                   |            |   |  |  |
| 1 古文書：修復(枚)                 | 114                   | 116                   | 114                   | -           | (34)              | -          | ◇大規模改修工事のため館内での修復作業ができなくなることから、修復枚数の測定項目に対しては目標の数値設定を行えませんが、限られた回数であっても継続できるよう努めます。<br>◇彩の国デジタルスキップステーションとの連携による報道写真のデジタル画像の公開は、改修工事中においても計画的に実施することにより、例年並みの点数は可能と判断し、前年同様の目標値としました。   | ○修復活動は、作業場所を館内から外部に移して行いました。<br>○昨年度に引き続き、ボランティアの技術の維持向上のため、古文書輪読会や東秩父和紙の里・都立中央図書館見学等の研修を実施しました。 | ○30年度も大規模改修工事の影響で修復作業が制約を受けませんが、引き続き、県立常盤高校と連携を図り、活動の維持・継続に努めます。<br>○報道写真のデジタル画像公開について、サービス向上の視点に立ち、提供写真のテーマや枚数などを彩の国ビジュアルプラザと協議し、提供を進めます。 |
| 2 古文書：報道写真デジタル化(点)          | 766<br>(累計)           | 796<br>(累計)           | 826<br>(累計)           | 856<br>(累計) | 856<br>(累計)       | 100%       | ◆古文書の修復については、大規模改修工事の影響で活動が大きく制限されましたが、年度後半は県立常盤高校の余裕教室を活用し、活動を維持・継続することができました。<br>◆報道写真のデジタル画像公開については、彩の国ビジュアルプラザとの連携により、目標値を達成しました。   |  | ○報道写真以外の古文書デジタル画像についても、当館ホームページで古文書講座のテキストを中心に公開を進めます。   |
| 3 行政文書：重要文化財指定文書の複製化(冊)(コマ) | 190<br>(77,654<br>コマ) | 151<br>(71,202<br>コマ) | 127<br>(53,958<br>コマ) | -           | (10)<br>(4,190コマ) | -          | ◇29～31年度の大規模改修工事による文書の館外保管という機に、従来の複製化にあわせて専門業者による修復を実施します。文化庁からの指導・助言を受けながら、単年度で事業が完成できるように、進捗状況をしっかりと把握する必要があります。このため、29年度は10冊の文書について、修復と複製化(4,000コマ)を実施する予定ですが、昨年度までとは異なる事業内容となるため、目標値としては設定を行いませんでした。<br>◆29年度に予定していた10冊の文書の修復と複製化は計画のとおり実施できました。 | ○マイクロフィルム撮影に耐える範囲での軽微な修理対象となる重要文化財指定文書を選定した上で、文化財修復実績が豊富な専門業者のもとで修復・撮影を行い、複製化を進め、保存と利用の調整を図りました。 | ○修理の対象となる重要文化財指定文書の精査に努めた上で、契約業者のもとで修復・撮影を行って複製化を進め、より効率的に保存と利用の調整を図ります。また前年度の経験を活かし、より安全な修復の進行に努めます。                                      |

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します。

| 測定項目                | 過年度実績 |       |       | 目標値A  | 実績値B  | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析 | 29年度の取組   | 次年度以降に向けた改善点  |
|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|----------------------|---|---|
|                     | 26年度  | 27年度  | 28年度  | 29年度  |       |            |                      |   |   |
| 1 講座、普及事業           | 回数    | 32    | 32    | 32    | 30    | 31         | 103.3%               | <p>◇各種講座を他館との連携等により外部施設を使用して開催することにより、大きくサービスが低下しないように努めました。</p> <p>◇学校との連携では、文書館に迎え入れることはできませんが、出前授業や外部会場での教員研修などに努めました。</p> <p>◇古文書の修補活動は、大規模改修工事のため活動が大きく制限されましたが、県立常盤高校の余裕教室を活用することで活動を継続するとともに、修補活動以外にも2回の現地研修会や古文書の解説研修会を実施し、ボランティアの資質向上に努めました。</p> | <p>○平成30年度は、大規模改修工事により館内の講座室等が使用不能となるため、この期間の講座や普及事業については、外部機関で実施することで、サービス水準の維持に努めます。</p> <p>○子供事業では、埼玉県ならではの教材を取り入れるとともに、体験内容の種類を増やして実施します。</p> <p>○各種古文書講座や子供体験教室等の応募方法に電子申請を導入し、サービスの向上や事務処理の効率化に努めます。</p> <p>○古文書の修補ボランティアについても、館内での作業が不可能なため、県立常盤高等学校の協力のもと、活動の継続に努めます。</p> |
|                     | 人数    | 1,313 | 1,293 | 1,310 | 1,000 | 1,117      | 111.7%               |   |   |
| 2 学校との連携事業          | 回数    | 42    | 44    | 75    | 45    | 19         | 42.2%                |   |   |
|                     | 人数    | 1,156 | 1,219 | 1,546 | 1,000 | 900        | 90.0%                |   |   |
| 3 ボランティア活動<br>古文書補修 | 回数    | 39    | 40    | 40    | 30    | 29         | 96.7%                |   |   |
|                     | 延人数   | 340   | 331   | 297   | 100   | 212        | 212.0%               |   |   |
| 4 ボランティア活動<br>子供事業  | 回数    | 12    | 12    | 13    | 8     | 10         | 125.0%               |   |   |
|                     | 延人数   | 63    | 105   | 35    | 30    | 24         | 80.0%                |   |   |

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらおう導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

| 測定項目      | 過年度実績 |        |       | 目標値A | 実績値B | 達成率<br>B/A | ◇目標値の設定理由<br>◆達成状況分析   | 29年度の取組  | 次年度以降に向けた改善点   |
|-----------|-------|--------|-------|------|------|------------|--|--|--|
|           | 26年度  | 27年度   | 28年度  | 29年度 |      |            |  |  |  |
| 年間観覧者数(人) | 8,755 | 10,283 | 7,216 | —    | —    |            | <p>◇歴史と民俗の博物館常設展示の1コーナーを利用した展示となり、独自の観覧者数計測が不可能なため、目標値の設定は行いません。</p> | <p>○歴史と民俗の博物館と共催で年間を通じて展示を開催することにより、県民に対して文書館の所蔵資料や機能の周知を図り、リニューアル・オープン後の利用者の拡大に努めました。</p> | <p>○リニューアル・オープンに向けて一層の周知を図るため、引き続き、歴史と民俗の博物館常設展示室での展示を継続するとともに、同館と共催で文書館所蔵資料を中心とした企画展を開催し、文書館と所蔵資料の魅力発信に努めます。同時に、会場での展示解説や展示テーマに関連した講座も行い、来館者の展示に対する理解の一層の深化に努めます。</p> |